

コロナ禍におけるオンライン授業のあり方に関する研究

－「教育課程論」及び「国際文化論」受講生の意見を参考に－

白 鳥 絢 也

A Study of Online Classes in the Corona Disaster (COVID-19 pandemic)
-Based on the Opinions of the Students of Curriculum and International
Cultural Studies

SHIRATORI Junya

2020 年 11 月 6 日受理

抄 録

本稿は、筆者が担当する教職課程科目「教育課程論」及び全学共通科目「国際文化論」の内容や構成を省察し、コロナ禍におけるオンライン授業のあり方を模索することを期したものである。また、受講生が望むオンライン授業のあり方についても言及し、すべての受講生のコメントと筆者の返信を公開することにより、受講生同士による「対話」も可能な「双方向授業」を目指したものである。

具体的には、両科目の受講生が記載した「本オンライン授業の感想及び全体を通しての要望」の記述の分析を行った。分析には、テキストマイニング・アプリケーション KH Coder 3 (Beta.01h) を用いた。これにより、受講生の要望を明らかにするとともに、今後のオンライン授業の構成や内容について検討する展望を切り拓いたといえよう。

キーワード：教育課程論，国際文化論，コロナ禍，オンライン授業，テキストマイニング

はじめに

本稿は、筆者が担当する教職課程科目「教育課程論」及び全学共通科目「国際文化論」の授業を題材にして、コロナ禍におけるオンライン授業のあり方を探ることを期したものである。また、受講生が望むオンライン授業のあり方についても言及する。「教育課程論」は、オムニバス形式であり、前半 6 回のオンライン授業（2020 年 5/12・19・26・6/2・9・16）及びオンライン課題 3 回を筆者が、後半 6 回の授業をもう一人の教員が担当している。受講者数は 111 名であり、大半は初等教育課程の 1 年生である。（※他学部他学科のブリッジ履修学生若干名を含む）

「国際文化論」は、12回のオンライン授業（2020年5/11・18・25・6/1・8・15・22・29・7/6・13・20・27）及びオンライン課題3回をすべて筆者が担当している。受講者数は168名であり、教育、外国語、造形、経営、社会環境、法、健康科学それぞれの学部学科の学生が履修している。また、学年もさまざまである。

1. 「教育課程論」オンライン授業

「教育課程論」全15回の授業のテーマは、以下のように設定している。

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 教育課程の原理－教育課程編成に関する法体系－ |
| 第2回 | 学習指導要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的 |
| 第3回 | 学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景 (1)
－生活単元学習から系統学習へ－ |
| 第4回 | 学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景 (2)
－教育内容の現代化からゆとり教育へ－ |
| 第5回 | 学習指導要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景 (3)
－新たな学力観と「生きる力」－ |
| 第6回 | 教育課程が社会において果たしている役割や機能 |
| 第7回 | 教育課程編成の基本原則 |
| 第8回 | 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法 |
| 第9回 | 教育課程や指導計画の検討 (1)－単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から－ |
| 第10回 | 教育課程や指導計画の検討 (2)－生徒や学校、地域の実態を踏まえた視点から－ |
| 第11回 | 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義 |
| 第12回 | カリキュラム評価と改善 |
| 第13回 | 教科、校種、学年横断的な教育課程の設計（カリキュラム・マネジメントを含む） |
| 第14回 | 教科、校種、学年横断的な教育課程の開発（カリキュラム・マネジメントを含む） |
| 第15回 | 新しい時代の教育課程のあり方 |
| 定期試験 | 筆答試験 |

授業当初の2020年5月12日（火）、オンライン授業は「3回」実施したのちに対面型に戻すという予定であった。しかしその後、コロナ禍の影響のもと、前期は基本的にオンラインで授業を行うことへと変更された。

オンライン授業において、筆者がまず意識したことは「対話」である。動画のない資料配信型であっても、受講生が教員と「対話」をしているような授業を行うことで、受講生の不安を少しでも払拭することを意図したものである。⁽¹⁾

具体的には、「どうぞ慌てずに焦らずに、じっくりと学んでまいりましょう。」「分からない言葉などがありましたら、ネット等で検索してみてください。自身の学びを深めることに繋がります。」といった、語りかけるようなスライド資料を作成した。（図1参照）また、スライド内にイラストを載せることで、文字ばかりではなく適宜リラックスできることを意識した。さらに、スライド資料を文字起こしした配付資料を用意し、スライド内の赤字の箇所（重要語句等）を空欄にし、受講生が穴埋め作業をする学習形態をとった。「書く」ことにより、内容を確実に修得することを意図したもの

であり、受講生にもその意図を明確に伝えた。

毎週のオンライン授業は、「Microsoft Forms」を用いた資料配信型で行った。先に挙げた「スライド資料」「配付資料（穴埋め）」「出席確認」の PDF ファイルを配信し、受講生は資料を学修後、「出席確認」にてアンケートを回答する流れとなる。受講生の回答は、「Microsoft Forms」の Excel ファイルにそのまま反映され、毎回「受講生氏名・学籍番号・スライドの理解度（はい・いいえ）・質問や感想」の四点について回答を得た。

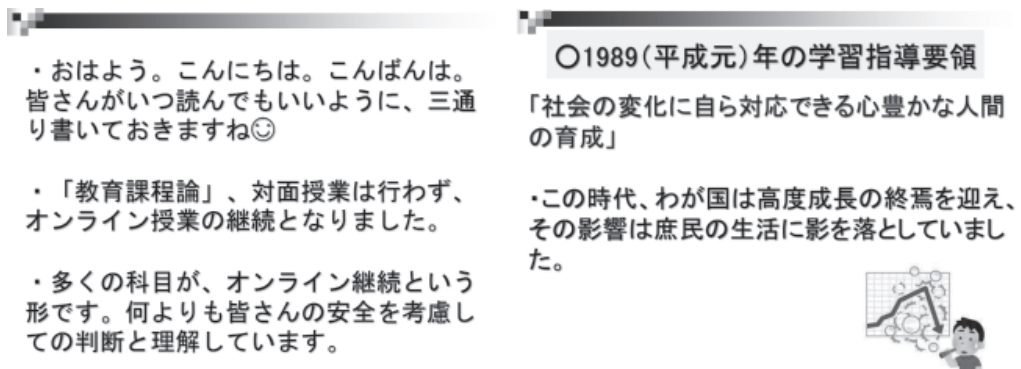


図1 「対話」を意識したスライド資料

筆者は、この「質問や感想」すべてに対してフィードバックすることを課した。（図2参照）すべての受講生のコメントと筆者の返信を公開することにより、受講生同士による「対話」も可能な「双方向授業」を目指したものである。ちなみに、コメントシートの文字数ならびにページ数は、以下の通りである。

- ・コメントシート1（質問や感想及び筆者の返信）：7,514 字 10 ページ
※ Word 標準 以下同
- ・コメントシート2（質問や感想及び筆者の返信）：15,398 字 16 ページ
- ・コメントシート3（質問や感想及び筆者の返信）：13,820 字 15 ページ
- ・コメントシート4（質問や感想及び筆者の返信）：15,535 字 15 ページ
- ・コメントシート5（質問や感想及び筆者の返信）：18,830 字 18 ページ
- ・コメントシート6（本オンライン授業の感想及び全体を通しての要望）
：21,116 字 23 ページ ※筆者の返信なし

これを毎週まとめることは、客観的に見ても時間と労力がかかるといえよう。しかし、このコメントシートは大きな役割を果たしたといえる。受講生の氏名は伏せているため、誰もが率直な疑問や考えを記すことができる。受講生にとって、このコメントシートは筆者との「対話」であり、また、共に学ぶ仲間との「対話」でもある。受講生は、自分と同じような考えを持つ仲間がいることに気付いたり、名前も顔も分からない仲間の鋭い指摘や深い考察に感心させられたりする。また、受講生はいつでも

学修のふり返りが可能であり、同時に自学自習への意欲を持つことへ繋がっていく。これらのことは、後に紹介する受講生のコメントから明らかである。

全6回のオンライン授業の終了後、「本オンライン授業の感想及び全体を通しての要望」について受講生から回答を得た。次に、受講生が記入した記述を分析することで、受講生の学びの特徴や要望を概観することとする。

2. 「教育課程論」オンライン授業の感想及び全体を通しての要望

全6回のオンライン授業の終了後、「本オンライン授業の感想及び全体を通しての要望」について、105名の受講生から回答を得た。(回答率：約95%)

・前回のがしっかり出席出来てるか不安です。送った記憶はありますが…。とても分かりやすかったです。

→ 大丈夫ですよ～ご安心ください(^^) 前回のコメントシート、1ページ目の下から2つ目のコメントです。

・コメントシートを読んでいて、「昭和22年の学習指導要領の冒頭はその内容に縛られず教師の創意工夫によって授業をつくってほしいという願いがとても伝わってきました。私の想像ですが、教えたくもないことを国からの命令に従ってまるで子どもを洗脳するかのようになければならなかった戦時中の間違った教育の反省を意識してつくられた文章なのではないでしょうか。」この方の感想がとても心に残ったので、もう一度前の講義の資料の昭和22年の学習指導要領を読み直してみたのですが、確かにこの方の仰っている通りだなと感じました。それまで指導要領に縛られず、教師の工夫によって行われていた授業も、具体的にどのように授業を行うのかの規則や決まりがどうしても必要になった結果、たくさんの意見や要望を元に26年度版学習指導要領がつけられたのですね。

33年度からどうして試案という文字が消えたのか気になって調べてみたところ、学校教育法施行規則の一部改正が関わっているようだということが分かりました。この改正によって学習指導要領のあり方が、参考→基準に変わり、その結果試案という文字が消えたのではないのかなと思いました。

また、「戦後間もない、貧しい時代の中、生徒のニーズを第一にという理念で教育課程が編成されていることが伺われます。」この、生徒のニーズを第一にというのは、選択教科が増えることにより生徒が自分で自分に必要な教科を選べる、また特別教育活動を設置することにより戦後の世の中で生きていく為に生徒に必要な力を学んでもらうことができるから、という解釈で良いのでしょうか？

先生は鳥がお好きなのですか？鳥柱ぜひ入りたいです(笑) はやく先生の対面授業を受けたいです。

→ 他の方のコメントを受けて、考察されている……素晴らしい！取り上げていただいた方も、きっと喜んでくれますね。また、よく調べ、熟考されました。あなたの解釈で大丈夫です。皆さん。ほれつ、学生さんの鑑を見習って(笑) 鳥柱へようこそ～🐦🐦🐦
ちなみに、鳥柱の「日輪刀」は焼き鳥の串です(笑) シジカハ!Σ(ﾟдﾟ)ベッケーノルビネネ

・私は、教科よりも教科外のほうが重要ではないかと思っています。なぜならば、学力があることよりも、経験や感性を豊かにするほうが社会に出て自分が自分らしく幸せに生きることができると考えるからです。(あくまでも私の考えです。)26年度の改訂版から「教育課程」という用語に変更されて、教科と教科外とが相まって、初めて調和の取れた人間形成が可能になるという考えが生まれたことを知りました。この時に新しい教育課程観が誕生してよかったなと思います。大学生の私も、教科もちろんですが教科外のことに挑戦し人間力を高めていきたいです。

→ いいですね～ご自身の言葉で見解を述べられていて、確かな学修が伝わります。どちらも大切であることは間違いありませんが、生き抜く力を身に付けるためには「特別活動」が重要です。

図2 「コメントシート」の一例

分析には、量的手法を取ることとし、分析ツールとしてテキストマイニング・アプリケーション KH Coder 3 (Beta.01h)⁽²⁾を用いた。「Microsoft Forms」の Excel ファイルの記述をテキスト化し、作成したテキストファイルを KH Coder 3 を用いて形態素解析を行い、「抽出語リスト」を作成した。その後、データの全体像を明らかにするために「共起ネットワーク」を作成した。なお、「語の取捨選択」において強制抽出する語を指定し（「学習指導要領」と指定し、「学習」「指導」「要領」と分かれなようにした等）、さらに誤字や文字化け等の修正を行った。

受講生による回答（全記述データ）の形態素の解析を行った結果、分析対象ファイルに含まれるすべての語の延べ数である「総抽出語数」は 12,082 語、何種類の語が含まれるかを示す「異なり語数」は 1,328 語であった。表 1 は、受講生による回答記述の上位 20 位と出現回数を示したものである。最も出現回数の多い語は「授業」であるが、これは「本オンライン授業の感想」という質問への回答であるため当然ともいえよう。上位には「教育」「学習指導要領」があり、また「学習」「学ぶ」「知る」という語が確認されることから、多くの受講生が「教育課程論」の学修内容に言及し、自学自習の重要さに気付いたことが推察される。また、「レポート」「書き方」も上位に位置しているが、これは「全体を通しての要望」への反応である。

図 3 は、抽出語の関係を検討するため作成した共起ネットワーク（出現回数 25 回以上の語）である。三沢 (2017) は「共起ネットワークとは、共起の程度が強い語を線で結んだネットワークのことで、強い共起関係である程太い線で結ばれ、出現回数の多い語である程大きな円で描画されている。」と指摘する。

図 3 から、語と語の関係強度が出ているものを挙げてみる。まずは、「学習指導要領 思う 教育 今 時代 学習」という、「本オンライン授業の感想」であり、「教育課程論」の学修内容に関わる分野である。学習指導要領の誕生から、7 回にわたる改訂の変遷を学んできたことが伺われる結果となった。次いで、「レポート 書き方 講座 理解」という、「全体を通しての要望」である。「レポートの書き方を教えて

表 1 回答記述の頻出語上位 20 位

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
授業	139	理解	40
思う	109	時代	39
教育	95	教員	38
学習指導要領	70	今	36
レポート	65	分かる	35
書き方	54	自分	31
学習	53	ありがとう	30
学ぶ	52	教育課程	30
課題	46	講座	30
知る	46	スライド	29

ほしい」という受講生の要望が単刀直入に表れている。また、「授業 スライド 先生」「楽しい ありがとう」という、「本オンライン授業の感想」であり、「学ぶ 知る 考える」ことができたという自己評価が推察される。一方、「教員 試験」「課題 提出」という、「全体を通しての要望」であり、「教員採用試験対策をしてほしい」「オンライン授業では課題が多く、提出の方法も締切もバラバラで困る」という受講生の要望が表れている。

88

ライン授業におけるさまざまな意図は、受講生にとってある程度有益であったことが伺われる。

「スライド資料」及び「コメントシート」について、実際の記述を数点確認すると、スライドとコメントシートの複合型が多いことが明らかとなった。（※下線部筆者）

- スライドがわかりやすく、資料もあるのでスライドで学習したことが復習できてよいと思った。
- ほかの講義のオンライン授業は「またか…」と少し憂鬱になっていることもありましたが、教育課程論はスライドはわかりやすく、コメントシートは先生のユーモア溢れる返信と他の方のコメントに刺激されてモチベーションが高まりました。
- いつもスライドがわかりやすく、画像やイラストを見ながら楽しく学習ができました。コメントシートを読むのも毎回楽しみにしていて、こんな風に考えている人がいるんだ、こんなことに着目して自分で調べた人がいるんだと感化されました。先生のコメントも面白くてすごく良かったです。
- 印刷したプリントと照らし合わせながらわかりやすいスライドで学びがとても深まりました。
- 先生が出してくださっていたコメントシートを見ると、毎回周りの友達の意識の高さに驚き、それと同時に自分もっと頑張らなければならぬと感じさせてくれました。また、新しい発見が毎回見つかりとても面白かったです。先生のコメントも毎回楽しみにしていました。
- コメントシートでは、自分では気づかなかったことに気づけたり、みんなや先生の考えや思っていることが知れて良かったです。
- スライドがとっても見やすくコメントシートも面白くて全然苦じゃなかった。むしろ楽しかった。
- 毎授業のスライドは本当分かりやすく、そして、コメントも毎回、面白くて学びとなる素晴らしいものでした。
- すべての回で、先生のスライドがおもしろく、また量も多すぎず、楽しく学ぶことができました。毎回、楽しみにしていた講義です。
- 先生の授業のコメントに対する返答が丁寧であり、自分も先生のコメントを頂きたかったので、よく資料を読んで質問させていただきました。そのため、大変授業の理解が深まりました。ありがとうございました。

最後に、「本オンライン授業の感想及び全体を通しての要望」について、実際の記述を数点紹介する。（※下線部筆者）

【本オンライン授業の感想】

- 教育課程論だけは、学ぶ(知る)楽しさを味わいながら学習することができました。時代の変化によって、学習、教育のしかたも変化していること、それに伴い学習指導要領の変化してきたことを学ぶことができました。
- 一つ一つの授業が要点を絞った短く濃い内容だったので、課題だらけの毎日の、唯一の救いの授業でした。ありがとうございました。

- 自分で調べたり考えたりすることができ、皆が何を調べたか、どのようなことを考えたかをコメントシートから理解することができとても良い授業だと思う。調べることで自分の理解がより一層深まったと思う。
- 丁寧でユーモアのあるスライドや資料のおかげで楽しく学ぶことができました。また、コメントシートからも学べることも多く、オンラインならではの良さも感じました。
- 文面での言葉遣いも丁寧で読みやすかったです。
- 授業のコメントシートから学べることも多く、意見の共有がとても意義あることだと分かった。意見の共有を教育に多く取り入れるべきだと思った。
- 各回のコメントシートを読んで同じ授業を受けているほかの学生の考えを読むことで自分とは違う視点での考えを持つこともできました。
- オンライン授業の強みをうまく活用してくださりととても面白かったです。自分ではなかなか気が付かなかったことや、自分とは異なった考え方を知ることができてためになりました。
- オンライン授業への対応やコメントシートの作成等、本当にありがとうございました。ここまで、オンライン授業で楽しく学生が主体的に学べたのも先生の厚いフォローがあったからだと思います。
- オンライン授業と初めての試みだったと思いますが、内容が分かりやすく楽しく学ばせていただきました。

【全体を通しての要望】

- レポートの書き方講座はあったら良いなと思います。説明がないままオンラインで急に「レポートを提出してください」と言われた授業もいくつかあって戸惑ったからです。
 - どの授業でもレポートの書き方が無いままレポート課題が出て、書き方が違うといわれてもどうしようもないので「レポートの書き方講座」は本当にやってほしいです。
 - オンラインでレポートを提出したときに先生方からの返信がないので、自分のレポートがどのように評価されているのか、着目点はどうか分からず不安であるので一言でいいので返事がほしい。
 - レポートの書き方があまりよくわかりません。みんなが提出したレポートに説明してくれる先生もいますが、出来れば最初に説明が欲しいです。
 - レポートや課題の評価等を確認できるようにしてほしい。レポートや課題を出したっきり評価をもらったことがないので、どのように次から改善して提出すればいいのか、良い評価か悪い評価なのかどのような評価かもわからずモチベーションにもつながりません。
- ※その他、教員採用試験対策、公務員試験対策、初等教育課程の学生の就職サポート、課題提出の現状がわかる一覧表、ポータルサイトでの課題提出の確認等。

受講生の記述から、オンライン授業において「面白さ」「分かりやすさ」「楽しさ」を求めていることが伺われる。具体的には、「文字を通して」楽しく学修できることが理想の形となる。その実現のために、教員は一方的な課題や資料の提示に留まらず、

「応える」ことが求められる。「レポートの書き方が無いままレポート課題が出て、書き方が違うといわれてもどうしようもない」「レポートを提出したときに先生方からの返信がない」「レポートや課題を出したっきり評価をもらったことがない」、これでは、受講生の深い学びへと繋がることはないといえよう。

今回の「教育課程論」オンライン授業における取り組みは、すべての受講生のコメントと筆者の返信を公開することにより、受講生同士による「対話」も可能な「双方向授業」を目指したものである。特に、「学生同士の意見の共有」により学びが深まった、視野が広がった、新たな発見を得た等の記述や、「オンラインならではの良さ」「オンライン授業の強み」といった記述から、一定の成果を得たものといえよう。

3. 「国際文化論」オンライン授業

「国際文化論」全 15 回の授業のテーマは、以下のように設定している。

- | | |
|--------|--|
| 第 1 回 | 本授業の概要 |
| 第 2 回 | グローバル化する 世界の学校を旅する |
| 第 3 回 | 比較教育学・比較教育文化論への誘い |
| 第 4 回 | わが国の教育制度と学校の風景 |
| 第 5 回 | 諸外国の教育制度と学校の風景 (1)
ードイツ・フランス・フィンランド・メキシコー |
| 第 6 回 | 諸外国の教育制度と学校の風景 (2) ーブラジル・ロシア・ポーランド・中国ー |
| 第 7 回 | 諸外国の教育制度と学校の風景 (3)
ーベトナム・イギリス・オーストラリア・アメリカー |
| 第 8 回 | 諸外国の教育制度と学校の風景 (4)
ーシンガポール・インド・マレーシア・ブルネーー |
| 第 9 回 | 諸外国の教育制度と学校の風景 (5) ーバングラデシュ・ケニア・南アフリカー |
| 第 10 回 | 諸外国の教育制度と学校の風景 (6) ー韓国・タイ・ブータン・サモアー |
| 第 11 回 | 諸外国の教科書 (1) ー世界の国語教科書ー |
| 第 12 回 | 諸外国の教科書 (2) ーブラジルの教科書ー |
| 第 13 回 | わが国における外国人労働者の状況および子女の教育問題 |
| 第 14 回 | わが国における外国人学校の現状と課題 |
| 第 15 回 | 全体のまとめと各自の今後の課題の明確化
試験 |

こちらも「教育課程論」同様、授業当初の 2020 年 5 月 11 日 (月)、オンライン授業は「3 回」実施したのちに対面型に戻すという予定であった。しかしその後、コロナ禍の影響のもと、前期は基本的にオンラインで授業を行うことへと変更された。

オンライン授業についての筆者の意図、具体的な進め方やスライド等については、基本的には既述の「教育課程論」と同様であり、内容が重複するので言及を避けることとする。

「国際文化論」においても、筆者は「質問や感想」すべてに対してフィードバックすることを課した。同じく、すべての受講生のコメントと筆者の返信を公開することにより、受講生同士による「対話」も可能な「双方向授業」を目指したものである。

ちなみに、コメントシートの文字数ならびにページ数は、以下の通りである。

・コメントシート1（質問や感想及び筆者の返信）：8,901 字	12 ページ	※ Word 標準	以下同
・コメントシート2（質問や感想及び筆者の返信）：14,745 字	17 ページ		
・コメントシート3（質問や感想及び筆者の返信）：18,229 字	19 ページ		
・コメントシート4（質問や感想及び筆者の返信）：17,182 字	18 ページ		
・コメントシート5（質問や感想及び筆者の返信）：17,047 字	18 ページ		
・コメントシート6（質問や感想及び筆者の返信）：16,744 字	18 ページ		
・コメントシート7（質問や感想及び筆者の返信）：14,654 字	16 ページ		
・コメントシート8（質問や感想及び筆者の返信）：17,900 字	18 ページ		
・コメントシート9（質問や感想及び筆者の返信）：19,969 字	20 ページ		
・コメントシート10（質問や感想及び筆者の返信）：※学生によるプレゼンテーション回			
・コメントシート11（質問や感想及びプレゼンテーションを行った学生の返信）			
	：21,539 字	21 ページ	
・コメントシート12（本オンライン授業の感想及び全体を通しての要望）			
	：31,037 字	39 ページ	※筆者の返信なし

全12回のオンライン授業の終了後、「本オンライン授業の感想及び全体を通しての要望」について受講生から回答を得た。次に、受講生が記入した記述を分析することで、受講生の学びの特徴や要望を概観することとする。

4. 「国際文化論」オンライン授業の感想及び全体を通しての要望

全12回のオンライン授業の終了後、「本オンライン授業の感想及び全体を通しての要望」について、151名の受講生から回答を得た。（回答率：約90%）

「教育課程論」同様、分析ツールとしてテキストマイニング・アプリケーション KH Coder 3 (Beta.01h) を用いた。同じ方法をとったため、詳細は省略する。

受講生による回答（全記述データ）の形態素の解析を行った結果、分析対象ファイルに含まれるすべての語の延べ数である「総抽出語数」は17,348語、何種類の語が含まれるかを示す「異なり語数」は1,543語であった。表2は、受講生による回答記述の上位20位と出現回数を示したものである。「教育課程論」同様、最も出現回数の多い語は「授業」であった。上位には「教育」「学校」があり、また「日本」「国」「世界」という語が確認されることから、多くの受講生が「国際文化論」の学修内容である「世界の学校」に言及したことが推察される。

図4は、抽出語の関係を検討するため作成した共起ネットワーク（出現回数25回以上の語）である。語と語の関係強度が出ているものを挙げてみると、「教育 日本 世界」という、「本オンライン授業の感想」であり、「国際文化論」の学修内容に関わる分野である。取り上げた世界の学校の三類型、比較教育学、比較教育文化論を学んできたことが伺われる結果となった。「授業 思う 楽しい ありがとう 面白い 対面」これもオンライン授業の感想であり、「今 考える」ことの重要性に気付いたことが推察される。「レポート 書き方」「課題 提出」は「全体を通しての要望」で

表 2 回答記述の頻出語上位 20 位

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
授業	259	ありがとう	69
思う	172	スライド	55
教育	123	対面	55
学校	94	文化	52
日本	94	課題	51
学ぶ	74	レポート	50
国	74	受ける	49
楽しい	73	面白い	47
世界	73	分かる	45
知る	70	オンライン	44

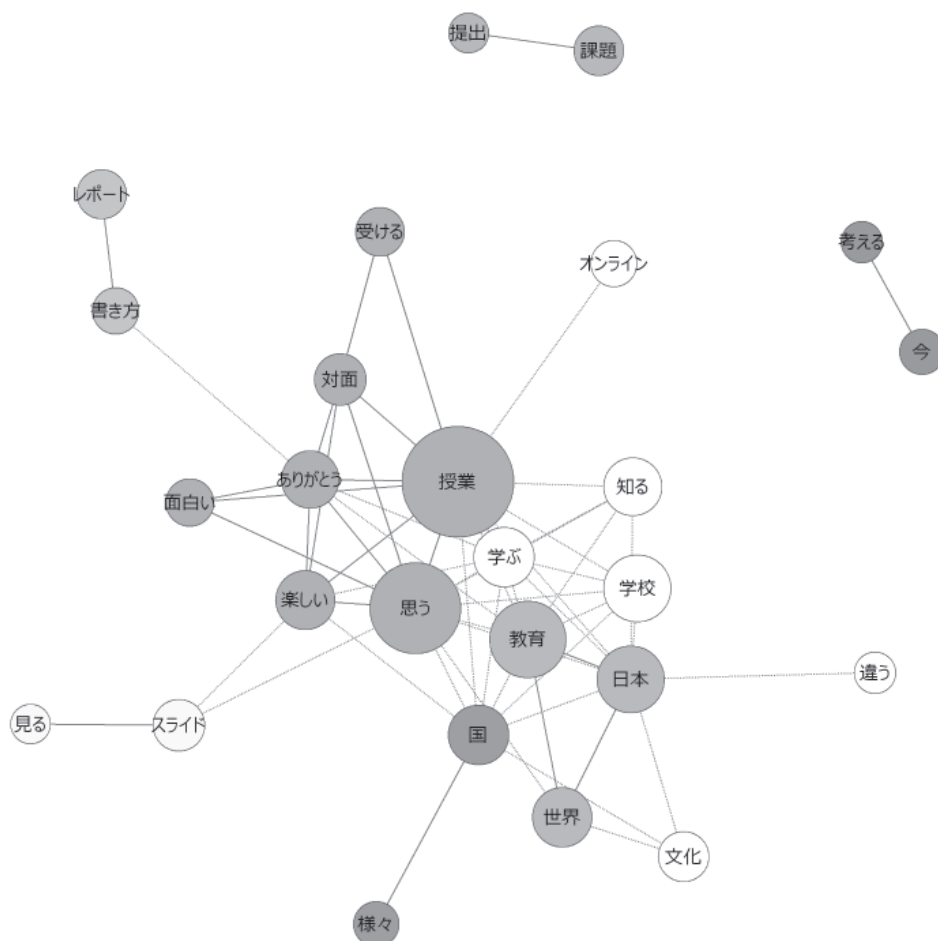


図 4 共起ネットワーク（国際文化論）

ある。「レポートの書き方を教えてほしい」「課題が提出されているか確認できるようにしてほしい」という受講生の要望が如実に表れている。

最後に、「本オンライン授業の感想及び全体を通しての要望」について、実際の記述を数点紹介する。（※下線部筆者）

【本オンライン授業の感想】

- ・慣れないオンライン授業で不安もありましたが、スライドがとてもわかりやすく、毎回楽しく学習することができました。また、他の人のコメントを見て様々な意見を知ることができ、より理解を深めることができました。
- ・先生の生徒に理解してもらおうとする姿勢を感じ、真剣にそして楽しく授業を受けることができました。
- ・世界の教育事情を比較、背景、ユニークな例と共に楽しく学ぶことが出来ました。いつもわかりやすいスライドが配布されたおかげで新たに学んだことについても理解を深められたと思います。
- ・資料には写真が載っていたので、わかりやすかったです。自分で穴埋めをするプリントがあったので、さらに理解することができたと思います。オンライン授業という初めての体験で、不安でいっぱいでしたが、毎授業の資料や先生の言葉が面白くて、すごく楽しかったです。
- ・一つ一つの事柄に、様々な要因が関係していて、それを自分で調べて行けたのが何より良い経験になりました。
- ・今までになかった状況の中でのオンライン授業でしたが、スライドや資料をもとに知識を深めることができました。コメントシートのおかげで自分から興味を持って調べられました。一つ一つのコメントに返信して下さるなど生徒のことを考えて下さり嬉しかったです。
- ・スライドがいつもテーマごとに区切られているのでとても見やすかったです。また、クイズ形式のスライドなどもあり楽しく国際文化論を学ぶことができました。
- ・様々な国の学校事情と日本の学校の事について知ることができてよかったです。また、イラストを見ながら毎回癒されており、とても楽しく授業を受けることができました。
- ・世界の学校の制度と日本との違いを発見できました。わかりやすさはもちろん、飽きないで受けることができ感謝しかありません。授業の資料を作るのは絶対に大変なことなのに、コメントも毎授業欠かさずに書いていてすごいなおもいました。
- ・先生の授業はわかりやすく、課題も大変ではなく、前期のオンライン授業の中で一番快適に、負担が少なく行うことができました。一番、しっかり身についた授業な気がします。
- ・先生のスライド講義が1番分かりやすかったです。色々な国の学校が写真付きで短文で分かりやすくまとめてあり、とても頭に入りやすく、授業のことだけではなく先生のご家族、アニメなどを取り入れ面白く作成してあり、楽しく学べたのが何よりもよかったです。
- ・日本と海外の学習の違いなどとても分かりやすいスライドになっていて、また、海外研修で体験した学生さんのプレゼンテーションを拝見する事ができ、授業などでは触れられないような細かな生活風景が理解する事ができ、海外に行ってみたいという気持ちにもなりました。

- ・世界の教育事情について楽しく学ぶことができました。これからの学習に活かしていきたいです。わかりやすい授業とコメントへの丁寧な返しありがとうございました。
- ・オンライン講義、本当にお疲れ様でした。先生のスライドはとても見やすく、真面目な中にユーモアもあってとても楽しく受けさせていただきました。
- ・先生のスライドは対面授業を受けているかのような話し言葉と理解し易いスライドで楽しく授業を受けることができました。

【全体を通しての要望】

- ・レポート対策です。教科書にはレポートの書き方などが載っていますが、実際に様々なテーマについて書くとなると、どういった始まりがいいのかなど不安を抱えることが多いです。
- ・レポートの書き方の指導がないまま様々な授業でレポートを書けと言われたので、ずっと書いてこのままで大丈夫なのかなという不安がありました。レポートの書き方講座などを最初にやっていただければ幸いだったかなと思います。
- ・レポートの書き方は基盤となるような書き方を1年次に教われたらよかったかなと思いました。
- ・レポート課題の量が多く苦勞してます。学修内容・レポートの書き方など今まで経験がないことばかりで各科目とも必死です。資料だけで理解するのが難しいことも多く、もう少し説明があったらと思います。
- ・評価基準や内容の定着度の確認が難しいからだとは承知の上で、課題が多すぎるように感じました。こなすことで精一杯になってしまっていたので、「国際文化論」のようなスライドとコメントシートの方式が自分の理解度に合わせて学習できると思いました。
- ・今はオンラインだからかもしれませんが、出された課題をただこなすだけというシステムになってしまっているように思うので、課題だけでなくより興味が出て理解が深まる様な制度にいただけたらいいなと思います。

※その他、公務員試験対策、ポータルサイトでの課題提出の確認、TOEIC 対策、大学のWi-Fi の強化、オンラインの動画配信等。

受講生の記述から、「教育課程論」同様、オンライン授業において「面白さ」「分かりやすさ」「楽しさ」を求めていることが伺われる。また、「不安を抱える」「課題が多すぎる」「こなすことで精一杯」という本学学生の声に耳を傾けることが必要であろう。「より興味が出て理解が深まる様な」授業を展開することが求められているのである。その他、初年次教育としてレポートの書き方講座を行うという示唆を得た。くり返しになるが、受講生の声に「応える」ことが求められる。受講生の深い学びへと繋がるためにも必要なことであろう。

今回の「国際文化論」オンライン授業における取り組みは、先の「教育課程論」同様、すべての受講生のコメントと筆者の返信を公開することにより、受講生同士による「対話」も可能な「双方向授業」を目指したものである。特に、オンライン授業において「プレゼンテーション」を行ったことは有意義であった。「学生さんのプレゼ

ンテーションを拝見する事ができ、授業などでは触れられないような細かな生活風景が理解する事ができた」「留学した方のレポートの授業の回もあり、少しだけ留学というモノに興味も持てました。」と学生相互に影響を受けた記述が確認でき、一定の成果を得たものといえよう。

おわりに

本稿では、筆者が担当する教職課程科目「教育課程論」及び全学共通科目「国際文化論」の授業を題材にして、コロナ禍におけるオンライン授業のあり方を探ることを期したものである。また、受講生が望むオンライン授業のあり方についても言及した。オンライン授業の構成や内容について検討する一つの資料を得ることはできたといえよう。

今後の課題としては、受講生の記述の更なる精緻な分析を行い、実証的な裏付けを得るための方法を開発することと、研究の理論的枠組みをより緻密にすることが求められよう。コロナ禍におけるこれからの教育改革に対応した新たなオンライン授業のあり方及び大学での授業のあり方等について模索していくことを自身に課していきたい。

注

- (1) 対面型における「対話」及び「双方向授業」については、以下を参照されたい。
白鳥絢也「アクティブ・ラーニングを意識した「教育課程論」の授業スタイルに関する研究」常葉大学『教育学部紀要』（第37号）所収，pp.201-212，2017年3月。
- (2) 「KH Coder」《<https://kncoder.net/>》を参照されたい。

引用・参考文献

- (1) 植田晃次・山下仁編著『新装版「共生」の内実－批判的社会言語学からの問いかけ』三元社，2011年1月。
- (2) 白鳥絢也「「教育課程論」の授業構成に関する研究－教育課程の編成の方法・カリキュラム・マネジメント－」常葉大学『教育学部紀要』（第38号）所収，pp.111-122，2018年3月。
- (3) 田村知子ほか『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』ぎょうせい，2016年5月。
- (4) 二宮皓編著『新版 世界の学校－教育制度から日常の学校風景まで』学事出版，2014年1月。
- (5) 樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版，2015年12月。
- (6) 堀田龍也・佐藤和紀編著『教職課程コアカリキュラム対応 情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』三省堂，2019年3月。
- (7) 三沢大樹・柴田亮「劇表現を題材とした「総合表現」の授業に関する検討」常葉

大学初等教育課程『教育研究実践報告誌』（第1巻第1号）所収，pp.159-164，2017年10月。

- (8) 吉田武夫監修・根津朋実編著『MINERVA はじめて学ぶ教職^⑩ 教育課程』ミネルヴァ書房，2019年2月。